

大切な命、他人まかせにしていませんか？

西日本に甚大な被害を出した「平成30年7月豪雨」。ところが豪雨災害の傷も癒されないうちに**台風20号**が襲います。8月23日から24日に掛けて兵庫県内を縦断し、23日深夜に神戸空港で42.2mの最大瞬間風速を観測したのをはじめ、強風による被害が各地で相次ぎました。1時間に100ミリを超す猛烈な雨が神戸・阪神間を中心に降り、記録的短時間大雨となった。台風を中心から東側に当たる地域で非常に強い風が観測され、北淡震災記念公園では、高さ約60mの風力発電用風車が倒壊。西宮市ではマンションの屋根部分がはがれ落ち、明石市では酒造会社の倉庫が倒壊した。

台風20号の傷も癒えない状態で、**台風21号**が近畿地方を中心に強烈な災害をもたらした。被害状況はとてつもない規模であり、屋根が飛んだ。足場がくずれた。トラックがひっくり返った。高潮被害が発生した。このような被害がいたるところで無数に発生したのです。高潮の潮位は過去最高の233cm。こう聞いても多くの人は、海面が上昇する程度にしか思っていない。高潮は津波と同等のパワーを持っています。そのことを多くの人は知らず、油断していたようです。

大阪湾では、明石海峡と友ヶ島水道から海水が浸入し**高潮**が発生した。海水は台風の強い力で大阪湾内に引きこまれますが、台風が過ぎると明石海峡と友ヶ島水道からゆっくりと排水されます。この排水が遅く、その為に高潮が長時間、それも台風が過ぎた後も長引くことになる原因なのです。また、海水は真水より色々な力を持っており、電気系統をショートさせて機械が動かなくなったり、火災を発生させることもあります。乾いた後は塩が残り2次災害を引き起こします。

私たちは、自然を甘く見すぎてきたような気がしてなりません。災害は50年に一度、100年に一度が、毎月襲ってくる。この奇妙奇天烈な時代を生きる私たちは、それらに合わせて生きぬく必要があります。

猛烈な台風の中でも、仕事を優先しなければならぬ人が多いのも事実です。医療・金融・運輸など、止めることができないもの、止めても即動かさなければならぬもの、命に関わるものなど、最悪な風雨の中を出勤されています。本当に頭が下がる思いです。

しかし、自分が外出すると危険だから宅配を頼む人が多くいるのにも驚きます。例えば、ピザの宅配はバイクが転倒しながらも配達されています。これは今の社会構造で考えさせられる光景です。

でも、安全対策をしている企業も多く見受けられました。自宅待機・在宅勤務や有給休暇。工場では操業を取りやめ、夜勤操業停止。大手百貨店は営業中止。USJも営業を中止にしました。多くの企業で「お客様の安全と従業員の安全を考慮した」のも事実です。

それでも、現代社会はどうも「待つゆとり」がないように思います。宅配便では、台風の中、発送依頼の人が「明日に到着させるのが宅配だろう」と怒鳴り立てたり、「今日は配達できません」といっても、急がないものであっても辛抱できない。今の社会全体が、心に余裕を持ってなくなっているのかも知れません。

それは何故か？すべてに於いて他者依存が強くなっているからです。「どこかの誰かがやってくれる」。この考えが、災害発生時に於いても変わらず他者に依存するのです。『自分の命は誰かが守ってくれる。だから私はやらない』これはボランティアという素晴らしい活動がクローズアップされたことによる弊害でもあります。そこには、テレビなどメディアも大きく影響しています。番組制作は放送内容に添ったプロが作るのではなく、番組制作のプロが作るわけで、放送内容を熟知したプロが作っているわけではありません。当たり前のことですが、この当たり前が多くの人を間違えた方向に進ませてしまっています。

例えば、強風実験。傘を持って風の中を構え、風速何メートルとなるわけですが、実際の台風では一方向から吹くわけもなく、風も一定の強さでもありません。持って入る傘が飛ばされます。「傘が手から離れた後凶器になります」といわれますが、言葉で伝わらない人が大半です。その傘が人形などに刺さって『このようになり、大ケガもしくは死亡に至ります』ここまでいわずに多くの人はイメージできないのです。でも、このような番組を放送すると直ぐに放送局にクレームがきます。子どもの教育に悪いとか、見続ける事ができないなど、顔の見えない人、価値観を押しつける人からのクレームにメディアは屈してしまったのでしょう。

大災害が一度発生すると目を覆うようなことが山ほど見受けられます。これからの時代、やはり**事実を伝え、事前の知識アップで想定外をなくせ!**ですね。

